

<帰省シーズンに考える、親の葬儀>

親の想い、知らないままでもいいですか？

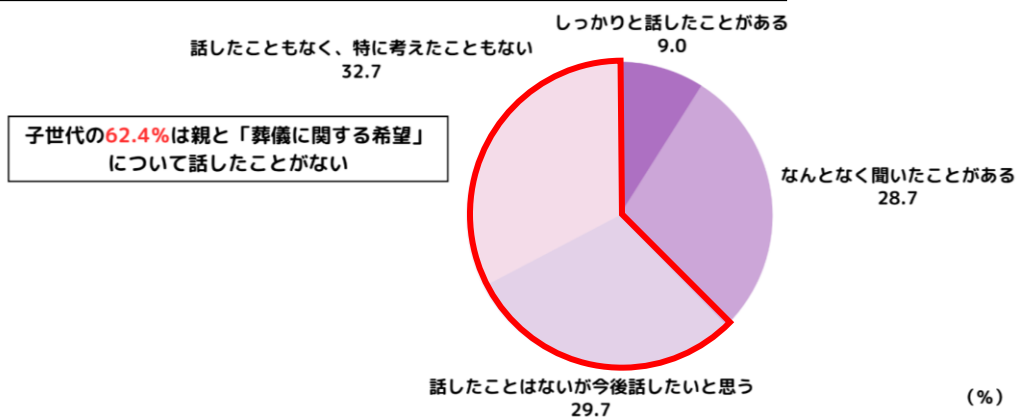
葬儀について親子どちらも約6割が「対話を望む」も 62.4%の子世代が「話したことがない」と回答！

“想い”はあるのに“対話”不足。葬儀の準備が進まない課題が明らかに

全国どこでも安心・安全に、そして後悔のないお葬式やライフエンディングを迎えられる世の中を目指し、トータルサポートを提供する、燦ホールディングス株式会社（東京本社：東京都港区、大阪本社：大阪府大阪市北区、代表取締役社長：播島聡、東証プライム：9628）は、この度、全国の40～50代の「子世代」300名と、60～70代の「親世代」300名を対象に、親世代と子世代の間で葬儀や終活に関する意識にどのようなギャップがあるか、実態調査を実施しました。

葬儀について62.4%の子世代が「話したことがない」と回答！

<子世代>親と「葬儀に関する希望」について話したことがありますか？n=300



今回の調査では、ご自身の葬儀について約6割の親世代が「子どもと話し合いたい」と望んでいる一方で、実際に「葬儀の話をしたことがない」と回答する子世代が約6割に上ることが判明。両世代ともにコミュニケーションの必要性を感じているにもかかわらず、会話ができていない現状が明らかになりました。

<調査サマリー>

- ①親世代の約半数が葬儀の希望を持つも、子世代の6割以上が親と葬儀の話をできていない現状
親世代・子世代に共通する「言い出しにくさ」が対話の壁に
- ②「想い」はあっても親が求めているものが分からない子世代
親の希望に「沿いたい」と考える子世代は約6割いるものの、実際に意向を「理解」しているのはわずか1割にとどまる
- ③親世代の多くが「葬儀の形式」は決めているものの、個性を反映する詳細項目は未定
親の曖昧なイメージが、子の「迷い」や「負担」にも？
- ④親子の“葬儀”以外の終活は、葬儀以上に深刻なコミュニケーション不足
7割超（73%）の子が「親の希望を知らない」と回答
- ⑤親世代・子世代ともに約6割が葬儀に関して「話し合いたい」
お盆などの機会に一步踏み出すことがおすすめ

■「親と子の終活・葬儀に関するコミュニケーションの実態調査」概要

調査期間：親世代：2025年7月29日／子世代：2025年7月28日

調査方法：インターネットによるアンケート調査

調査対象者：親世代：実子がいる60～70代の男女／子世代：親がご健在である40～50代の男女

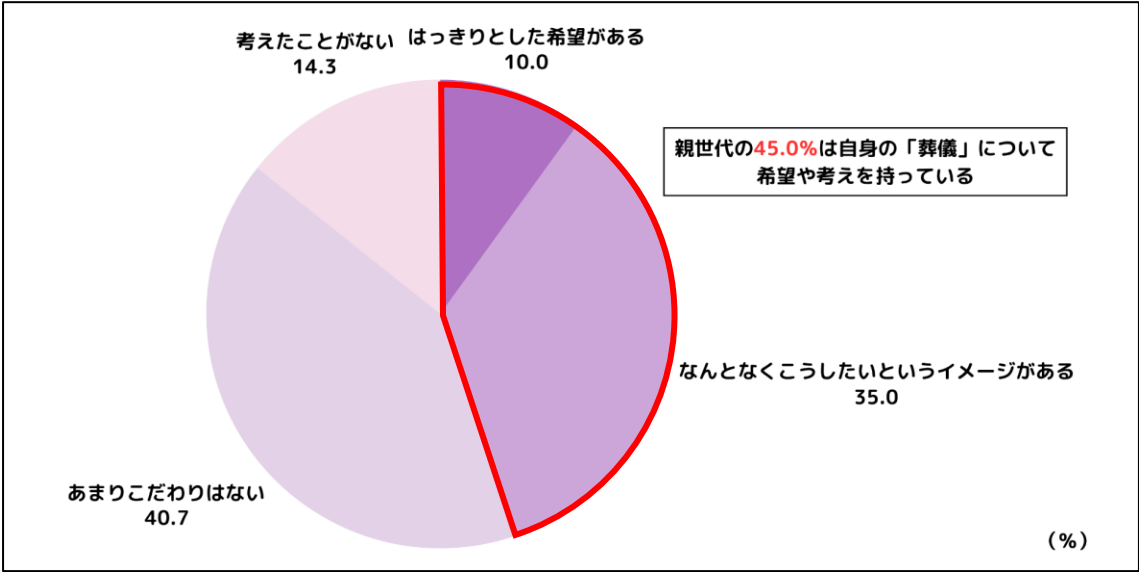
回答者数：親世代300名／子世代300名

調査主管：燦ホールディングス株式会社

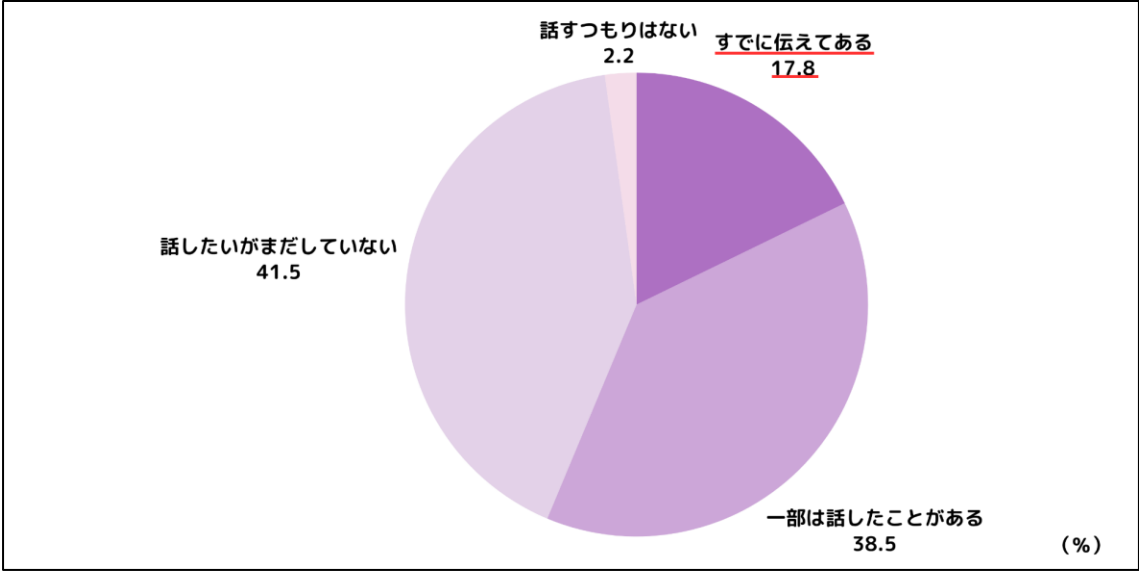
調査結果をご紹介いただく際は【燦ホールディングス「親と子の終活・葬儀に関するコミュニケーションの実態調査」より引用】と注釈をご記載ください。

①親世代の約半数が葬儀の希望を持つも、子世代の6割以上が親と葬儀の話をできていない現状
親世代・子世代に共通する「言い出しにくさ」が対話の壁に

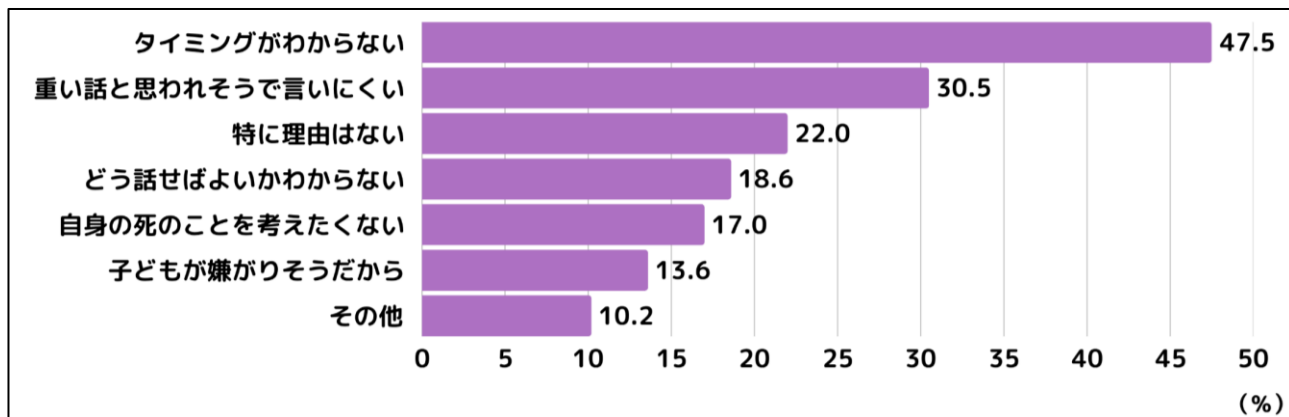
Q1.<親世代>ご自身の「葬儀」について、希望や考えを持っていますか？ n=300



Q2.<親世代>葬儀について「希望がある」「イメージがある」と回答した方に伺います。
その希望を、子どもに伝えていますか？ n=135

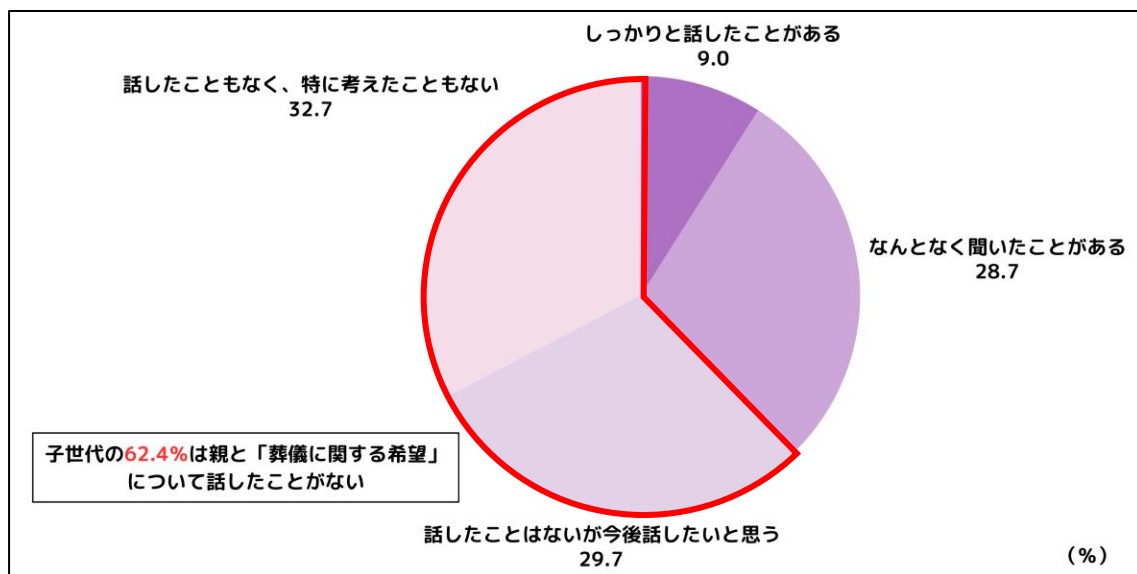


Q3.<親世代>「話したいがまだしていない」「話すつもりはない」と回答した方に伺います。
理由を教えてください。 n=59 ※複数回答可

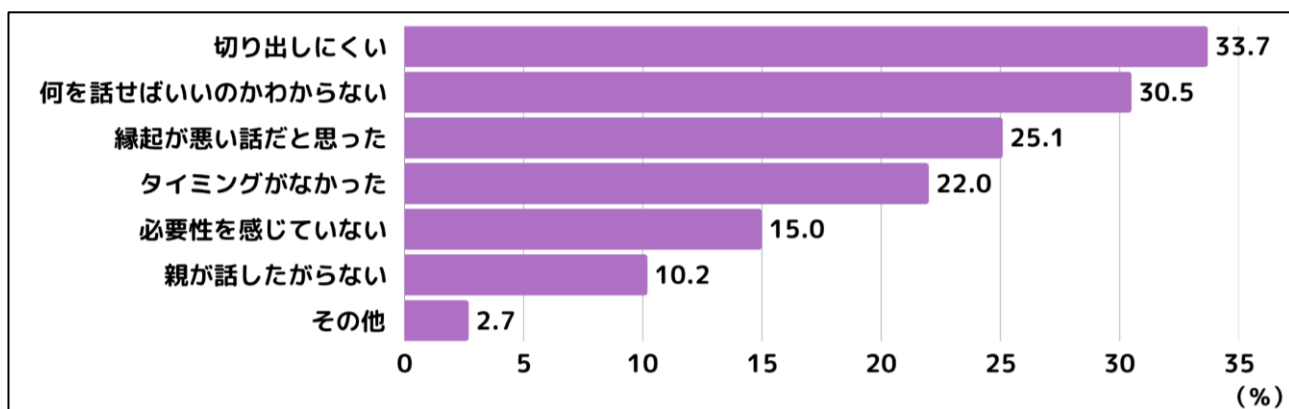


親世代では、45.0%が自身の葬儀について何らかの希望を持っていることが明らかになりました。しかし、そのうち実際に子どもに伝えている人はわずか17.8%に留まっています。親が話をためらう理由としては、「タイミングがわからない」（47.5%）や「重い話と思われそうで言いにくい」（30.5%）が上位に挙がり、対話への心理的な障壁が存在していることが浮き彫りになりました。

Q4.<子世代> 親と「葬儀に関する希望」について話したことがありますか？ n=300



Q5.<子世代>「葬儀に関する希望」について、親と話せていない理由を教えてください。 n=187

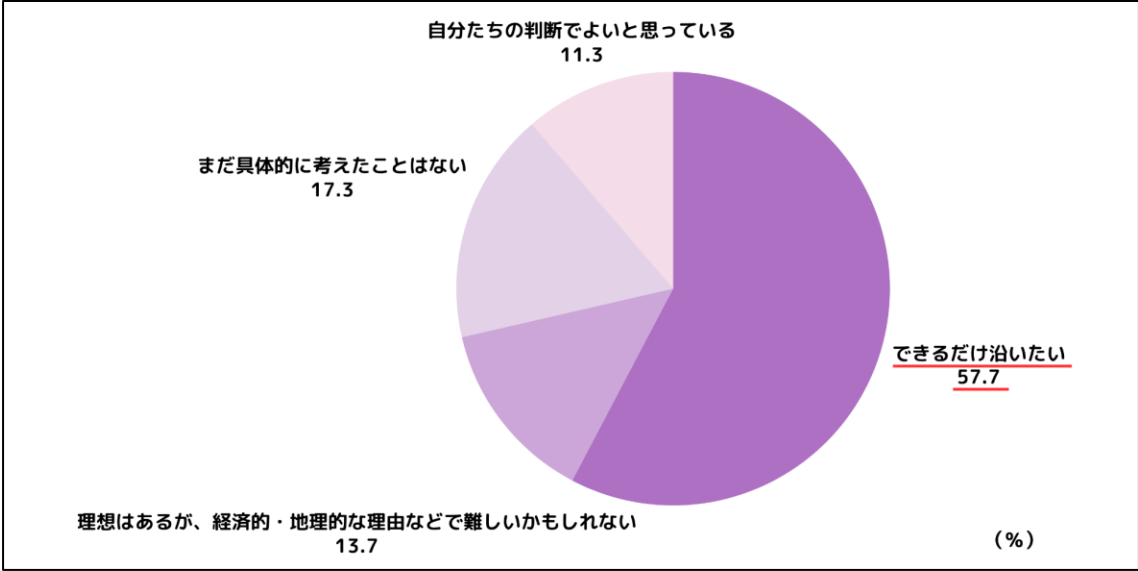


同様に、子世代でも62.4%が親と葬儀の話をしたことがないと回答。さらに、全体の3人に1人が「話したこともなく、特に考えたこともない」と答えており、親の死や葬儀を「自分ごと」として捉えられていない子世代が一定数存在していることが伺えます。また、話せていない理由については、「切り出しにくい」(33.7%)や「何を話せばよいかわからない」(30.5%)が上位を占めており、親世代・子世代ともに「言い出しにくさ」が共通の課題となっていることがわかります。

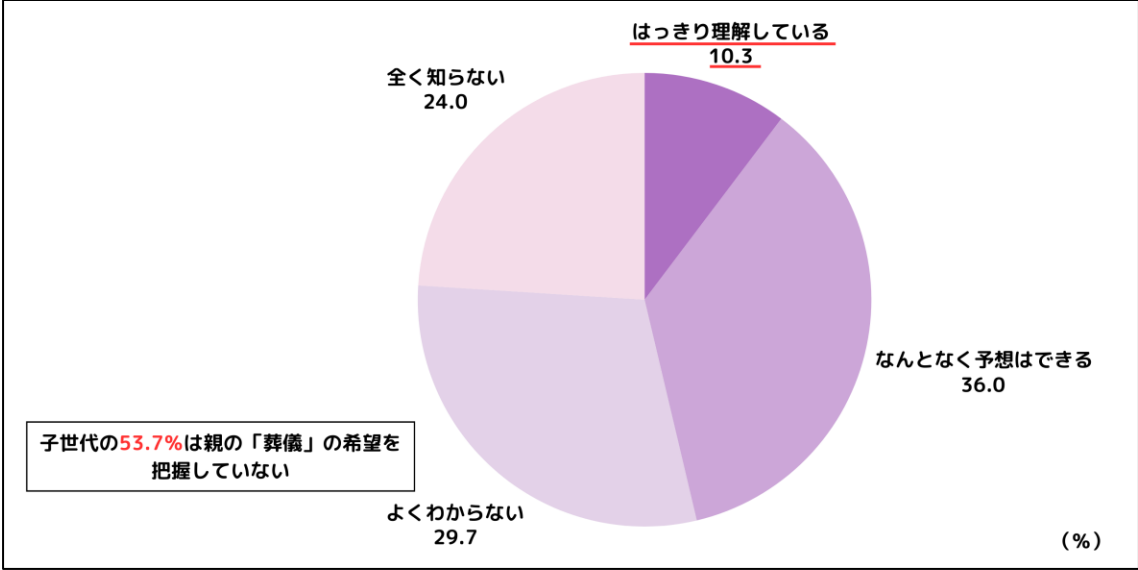
②「想い」はあっても親が求めているものが分からない

親の希望に「沿いたい」と考える子世代は約6割いるものの、実際に意向を「理解する」のはわずか1割にとどまる

Q6.<子世代>親の希望に沿った葬儀をしたいと思いますか？n=300



Q7.<子世代>親の「葬儀」の希望をどの程度理解していますか？n=300

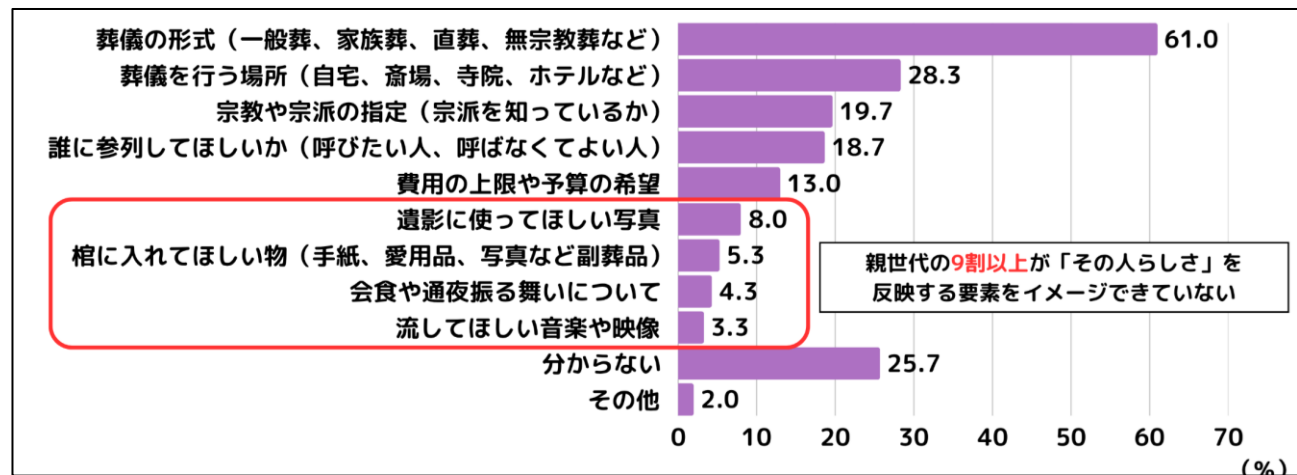


「親の希望に沿った葬儀をしたい」と考える子世代は57.7%に達しており、親の意向を尊重する強い姿勢が見られます。しかし、実際に親の意向を「はっきり理解している」人はわずか10.3%に過ぎず、「全く知らない」と回答した人は24.0%に上りました。これより、親の葬儀に対する強い思いがあるにもかかわらず、そのためのコミュニケーションが不足しているという、「想いはあるけど、親が求めているものが分からない」というギャップが浮き彫りになりました。

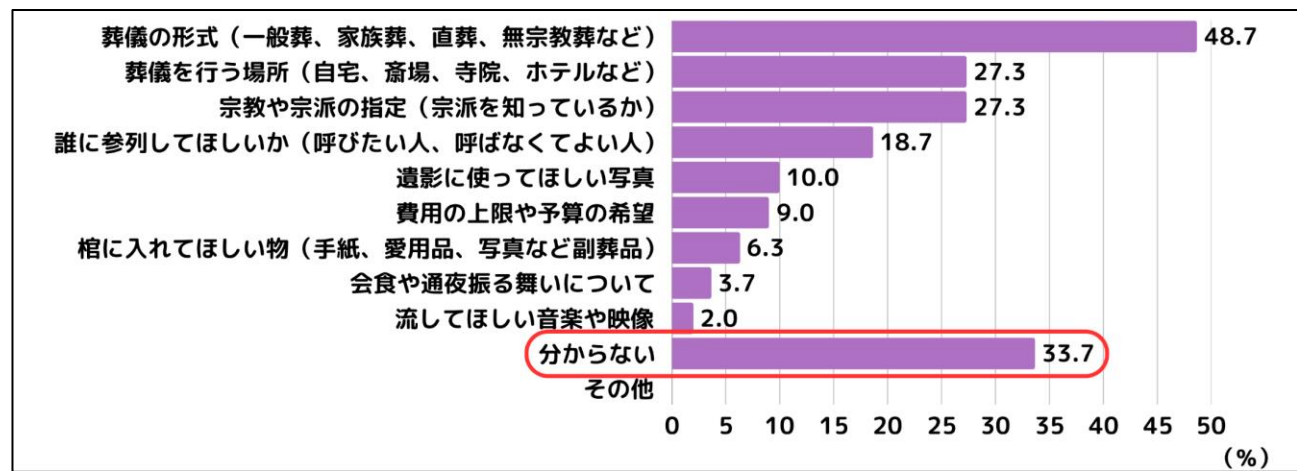
③親世代の多くが「葬儀の形式」は決めているものの、個性を反映する詳細項目は未定
親の曖昧なイメージが、子の「迷い」や「負担」にも？

Q8.<親世代>ご自身の「葬儀」について、どのような内容までイメージできていますか？

n=300 ※複数回答可



Q9.<子世代>親が望んでいる「葬儀の内容」について、あなたが把握している項目をすべて選んでください。n=300 ※複数回答可



親世代が「葬儀の形式（61.0%）」といった全体の枠組みについてはある程度イメージしている一方で、「その人らしさ」を反映するパーソナルな要素については、9割以上がイメージできていないと判明しました。たとえば、「遺影の写真」を決めている人はわずか8.0%、「棺に入れてほしい物」は5.3%、「流してほしい音楽」は3.5%「映像演出は」2.2%と、ほぼイメージできていない状態となっております。

加えて、「誰に参列してほしいか（18.7%）」や「宗教や宗派の指定（19.7%）」といった、葬儀の形式や規模を左右する重要な要素についても、具体的な希望を持つ人は少ない現状です。

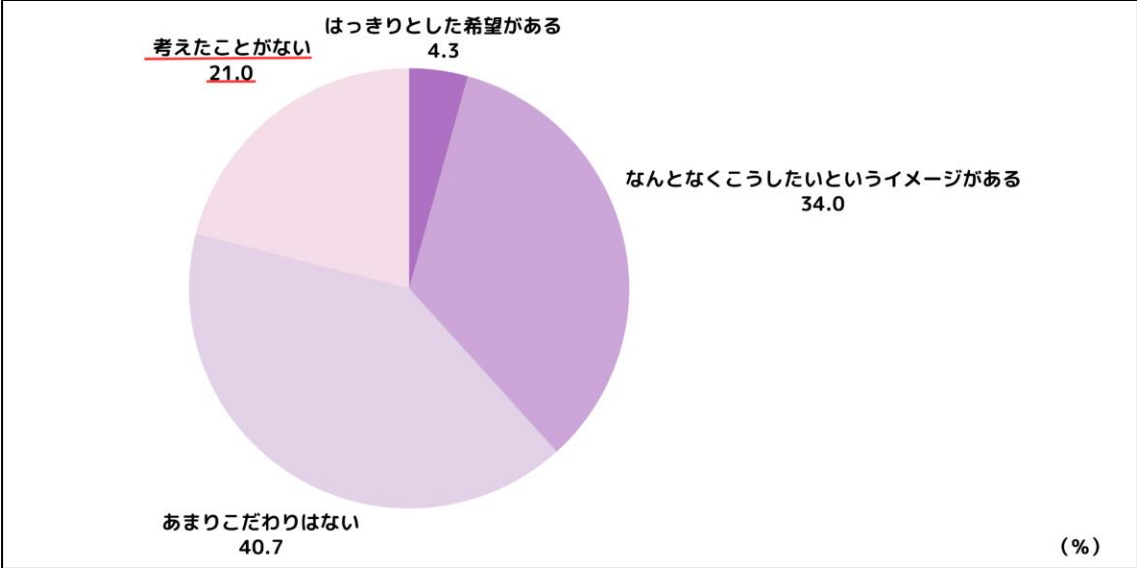
親の曖昧なイメージが子世代にとってはさらに大きな迷いや負担に繋がっていることが見て取れます。

誰を呼ぶか、どのような形で送るか、遺影の写真一枚、棺に入れる品ひとつをとっても、葬儀を行う時に遺された方は一つ一つ決めていかねばならず、「どれを選べばいいのかわからない」「これでよかったのか」と迷いながら準備を進めるケースは少なくありません。こうした“迷い”や“負担”を減らすためにも、元気なうちに、ささやかなことでも話しておくことが、のちの安心につながります。

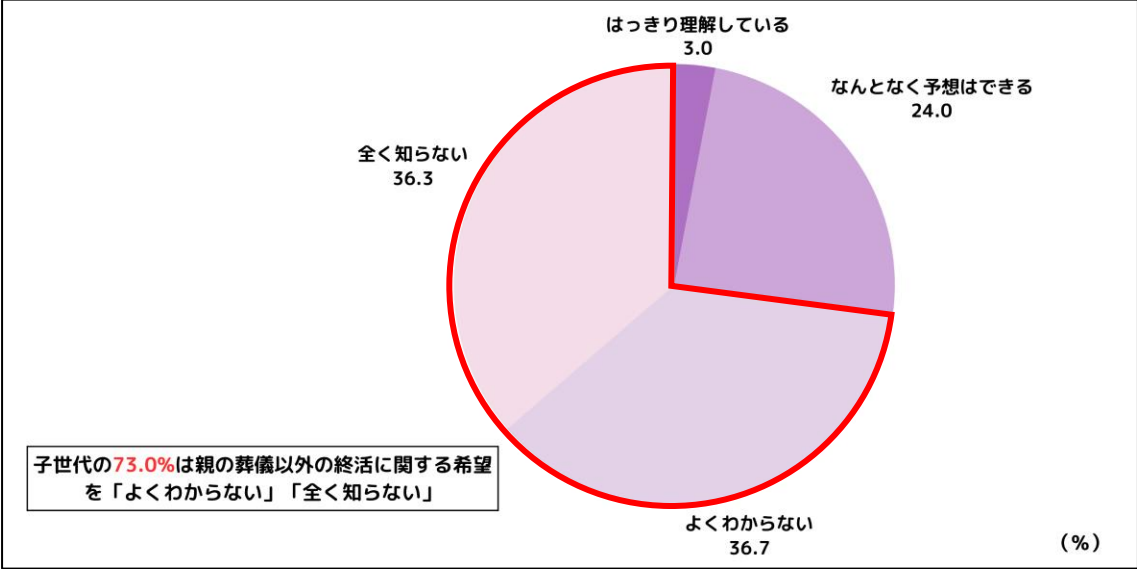
④親子の“葬儀”以外の終活は、葬儀以上に深刻なコミュニケーション不足

7割超（73%）の子が「親の希望を知らない」と回答

Q10.<親世代>ご自身の「葬儀"以外"」の終活に関して、希望や考えはありますか？n=300

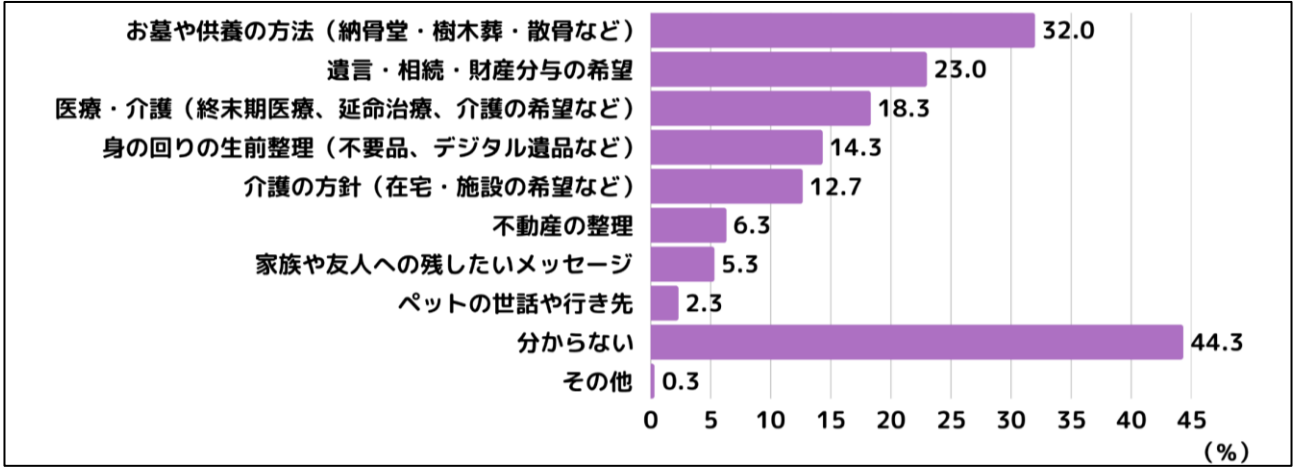


Q11.<子世代>親の「葬儀"以外"」の終活に関する希望をどの程度理解していますか？n=300



親子の間でコミュニケーションが不足している課題は、葬儀以外の終活項目になるとさらに深刻化することが明らかになりました。親世代では、葬儀以外の終活については21%が「考えたことがない」と回答。そもそも考えるきっかけがない親が多いことが伺えます。そして、その影響は子世代にも如実に現れており、親の葬儀以外の終活の希望を「よくわからない」「全く知らない」と回答した子世代は、合計で73%にも上りました。この割合は、葬儀の希望を「把握していない」と答えた割合（53.7%）を大きく上回り、終活全般にわたるコミュニケーション不足の深刻さが浮き彫りになりました。

Q12.<子世代>親が望んでいる「葬儀“以外”」の終活に関して、あなたが把握している項目をすべて選んでください。n=300 ※複数回答可

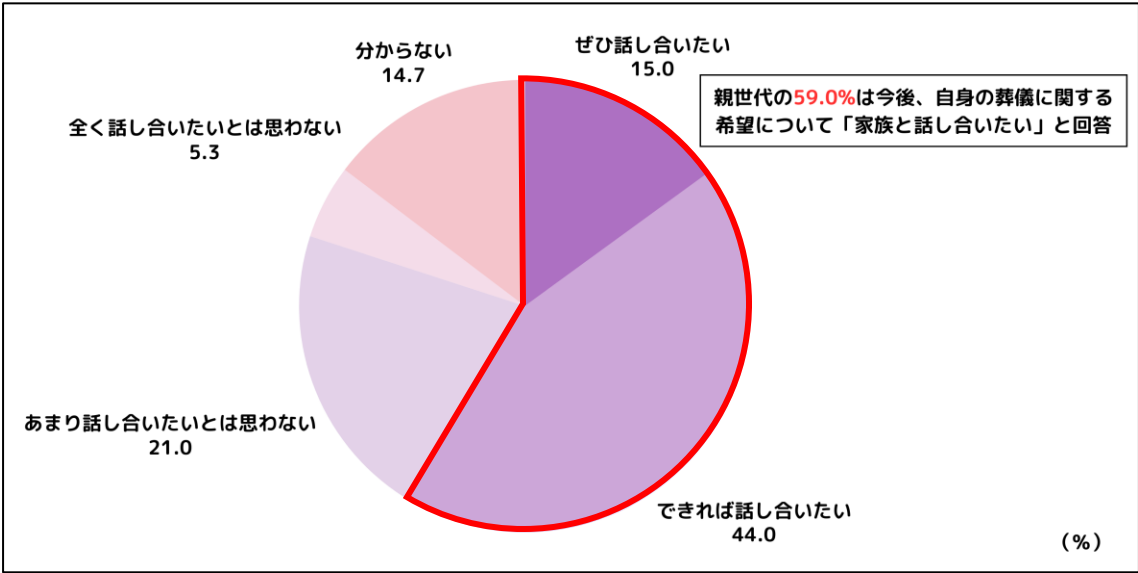


具体的に把握できている項目別にみても、「分からない」という回答が圧倒的に多くっており、親子のコミュニケーション不足は、葬儀費用だけでなく、遺産や介護など、より複雑でデリケートな問題にまで及んでいると言えます。

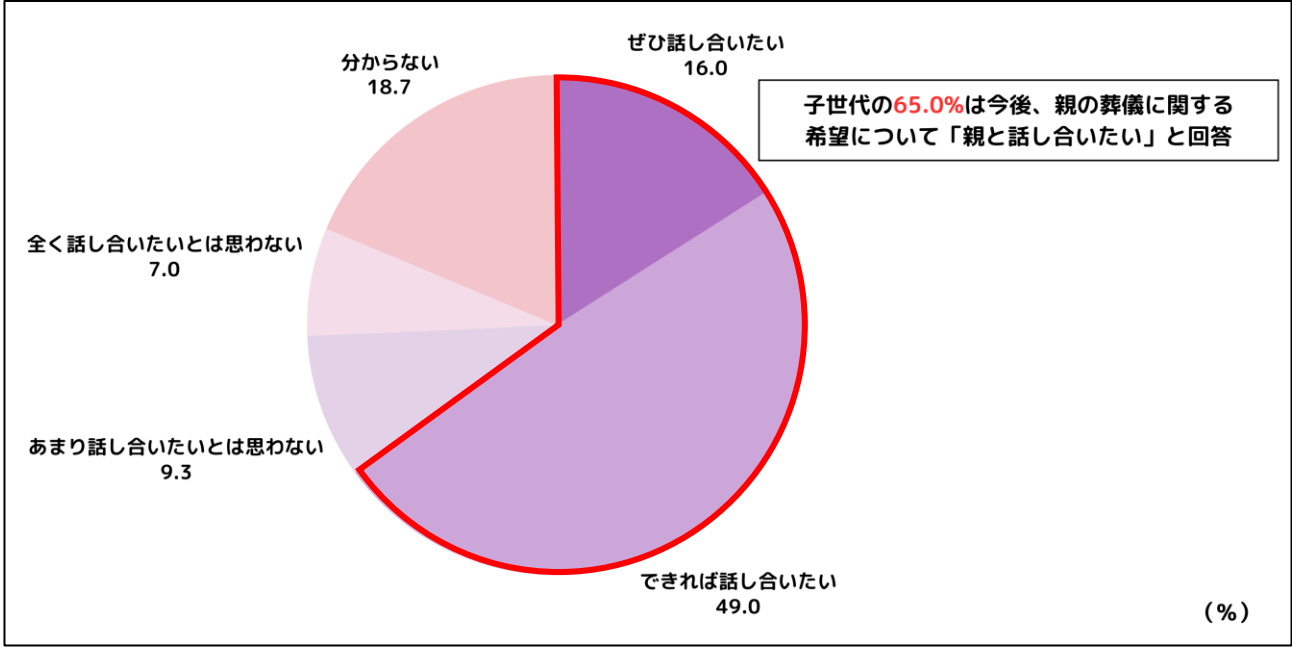
⑤親世代・子世代ともに約6割が葬儀に関して「話し合いたい」

お盆などの機会に一歩踏み出すことがおすすめ

Q13.<親世代>今後、ご自身の葬儀に関する希望について家族と話し合いたいと思いますか？ n=300



Q14.<子世代>今後、親の葬儀に関する希望について話し合いたいと思いますか？n=300



親世代の約6割（59.0%）が「家族と葬儀について話し合いたい」と考えており、子どもとの対話を望む声の大きいことが明らかになりました。同様に、子世代でも6割超（65.0%）が「親と葬儀について話し合いたい」と回答。両世代ともにコミュニケーションの必要性を強く感じているが、子世代の方が親世代以上に対話に積極的であることが判明しました。

しかし、前述の通り、実際に「話したことがない」と答えた子世代は62.4%に上ります。この結果は、親子ともに会話の意思はあるものの、なかなかその一歩を踏み出せないという、共通の課題を浮き彫りにしています。お盆は故人様やご先祖様の冥福を祈りながら供養し、家族のつながりを再認識する大切な機会です。普段はなかなか口にできない終活の話題も、お盆の穏やかな雰囲気の中であれば、一歩踏み出して話せるかもしれません。遺影に使ってほしい一枚の写真や、思い出の曲など、まずは「ささやかなこと」から、親子で対話を始めることが、後悔のない見送りに繋がる第一歩となるでしょう。

燦ホールディングスについて

燦ホールディングスグループは、東証プライム市場に上場する全国展開の専門葬儀事業者であり、葬祭業界のリーディングカンパニーとして、90年以上にわたり人の「最後」と真正面から向き合ってきました。私たちは“まごころ”をもって故人をお見送りする時間を大切に、シニア世代とそこそご家族の一人ひとりの人生に寄り添いながら、葬儀は人生の最終章を締めくくるかけがえのない儀式だと伝えたいと考えます。また、ライフエンディングに対する啓蒙にも積極的に取り組み、ご本人とご家族が安心して最後を迎えるための準備を、社会全体で支える未来を目指しています。

これからも、人生100年時代を生きるすべての人にとって、「最後の時間が愛と敬意に包まれる社会」の実現に貢献してまいります。

企業名 : 燦ホールディングス株式会社
東京本社 : 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館14F
TEL:03-5770-3301 (代表) FAX:03-5770-3302
大阪本社 : 大阪府大阪市北区天神橋4-6-39
TEL:06-6208-3331 (代表) FAX:06-6208-3332
設立 : 1944年(昭和19年)10月2日(創業1932年8月)
資本金 : 25億6,815万円
従業員数 : 54名(単体)、1,153名(連結)(2025年3月末現在)
事業内容 : 持株会社事業、不動産事業、管理業務受託事業
主要取引銀行 : 三井住友銀行、三菱UFJ銀行、三井住友信託銀行、みずほ銀行



燦ホールディングス株式会社
SAN HOLDINGS

【燦ホールディングスグループ】

持株会社事業、不動産事業、管理業務受託事業

・燦ホールディングス株式会社

葬祭事業およびライフエンディングサポート事業

・株式会社公益社 ・株式会社葬仙 ・株式会社タリイ ・株式会社きずなホールディングス

・株式会社家族葬のファミリーユ ・株式会社花駒 ・株式会社備前屋

葬祭関連事業およびライフエンディングサポート事業

・エクセル・サポート・サービス株式会社 ・ライフフォワード株式会社 ・株式会社クニカネクト

<https://www.san-hd.co.jp/about/group.html>